

試験研究成果普及情報

部門	内水面	対象	研究
課題名：千葉県におけるコイヘルペスウイルス病（KHVD）の発生状況			
<p>[要約] 千葉県ではH15年11月にKHVDの発生が確認されて以後、春と秋を中心に発生が継続しており、天然水域14件、管理水域15件の計29件のKHVD発生が確認されている。新規発生件数は平成16年をピークとして減少傾向にある。</p>			
キーワード コイヘルペスウイルス病、発生状況、まん延防止、対策			
実施機関名	主査 水産総合研究センター内水面水産研究所 協力機関		
実施期間	2003年度～2006年度		

[目的及び背景]

コイヘルペスウイルス病（KHVD）は平成15年に国内初の発生が確認された疾病である。千葉県では平成15年11月に県内初の発生が確認されて以降、春と秋を中心に発生が継続していることから、KHVDのまん延防止対策を進めるために発生状況の調査を実施している。

[成果内容]

- 1 千葉県内でKHVDの発生が最初に確認されたのは、平成15年11月である。
- 2 平成18年末までの発生件数は合計29件であり、内訳は管理水域15件、天然水域14件である。
- 3 年度別の発生状況は平成15年度4件、平成16年度17件、平成17年度6件、平成18年末まで2件と、平成16年をピークとして新規の発生件数は減少傾向にあり、既発生水域での大量死は報告されていない（表1）。
- 4 管理水域において、釣り堀、公園等の池での発生がそれぞれ全体の1/3を占め、次いで個人池、養殖場での発生となっている（図1）。
- 5 天然水域において、平成16年度末までは利根川・江戸川水系の河川を中心に発生したが、平成17年5月にはこれらの水系と直接連絡がない内房地域の河川で集中的に発生が見られた。平成18年には夷隅地域の河川でも発生が確認された（表2）。
- 6 月別の発生状況は、5～6月の初夏と、9月～11月の秋期を中心とした時期に発生が集中し、コイヘルペスウイルスの増殖適水温である20～25℃で発生が多い（図2）。

[留意事項]

- 1 現状では生きた状態でキャリア魚（健康保菌魚）を確実に検出する方法がない。コイは食用・観賞用とも活魚流通が主体であることからKHVDの発生を防止するためには、魚の管理をロット別に行い、給排水も独立して管理することが重要である。
- 2 天然水域で新規発生件数が減少しているのは、放流自粛の効果が上がっているものと思われる。

[普及対象地域]

県下全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 KHVDの発生件数

年度	発生件数	内訳	
		管理水域	天然水域
15	4	3	1
16	17	9	8
17	6	2	4
18* ¹	2	1	1
合計	29	15	14

*¹ 平成18年12月末までの発生件数

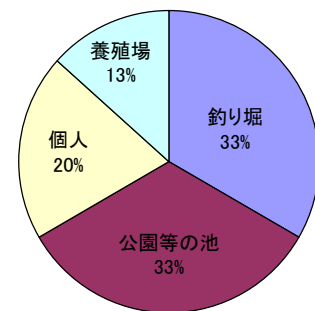


図1 管理水域での発生内訳

表2 KHVDが確認された天然水域

年度	月	発生場所
15	11	坂川
16	5	真間川
	6	農業排水路(酒々井町)
	"	農業排水路(印旛村)
	"	印旛沼
	9	利根川
	"	江戸川
17	"	都川
	3	座生川
	5	小櫃川
	"	矢那川
	"	養老川
18* ¹	"	浮戸川
	7	夷隅川

*¹ 平成18年12月末までの結果

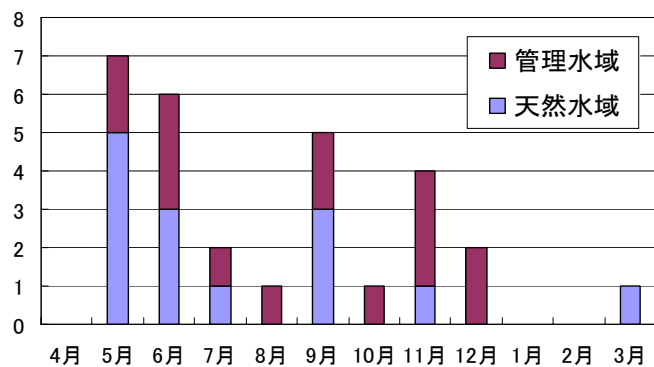


図2 KHVDの月別発生件数

[発表及び関連文献]

魚類防疫対策事業（コイヘルペスウイルス病まん延防止対策検査）、平成15年度千葉県内水面水産研究センター事業報告、2005年

魚類防疫対策事業（コイヘルペスウイルス病まん延防止対策検査）、平成16年度千葉県内水面水産研究センター事業報告、2006年

魚類防疫対策事業（コイヘルペスウイルス病検査事業）、平成17年度千葉県水産総合研究センター業務年報、2006年

[その他]